

幼児教育長期派遣通信 3学期号

発行 令和6年3月27日

福山市立緑丘小学校 渡部 裕貴（派遣園・所：福山市立緑丘幼稚園）

本研修では、幼児教育の実践を体験することによって幼児教育の理解や幼保小接続の充実を図ることを目的としています。3学期号では、研修題目に掲げている「学びをつなぐ 人をつなぐ スタートカリキュラム」についてお伝えします。

1 3学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・年長組保育観察、補助
- ・月案、週案の確認
- ・保育カンファレンス
- ・エピソード研修

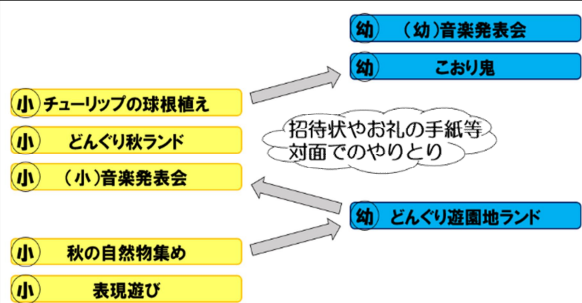
(2) 園外研修

- ・所属校に入学してくる園児の実態把握
- ・幼児教育長期派遣研修報告会
- ・幼保小連絡協議会
- ・幼保小連携教育合同研修会
- ・幼児教育アドバイザーによる訪問指導
- ・城東中学校区研修会
- ・スタートカリキュラム、週時程等の提案（校内研修）

2 研修を通して

【事例】「冬ランド」（「学び」と「人」が繋がった幼小交流活動）

【これまでの交流活動の様子】



2学期、1年生から手渡された招待状をきっかけに、表現遊び・秋の自然物集めを一緒に楽しみました。園児たちは、活動を通して**相手意識が芽生え**始め、園児主催の「どんぐり遊園地ランド」に1年生を招待しました。招待する時は、1年生から手渡された招待状を真似して、園児自ら気持ちを文字や絵で表現していました。対面でのやりとりが進むにつれて**互いの関係性が深まり、学びが途切れない、子供主体の交流活動**に変わっていきました。

【子供の姿】

1月に行われた表現参観（歌や合奏、創作劇）を振り返る中で、「また誰かを招待して楽しんでもらいたい」という気持ちが生まれ、新たに「冬ランド」をすることにしました。「どんぐり遊園地ランド（長期派遣通信2学期号で掲載）」の経験を生かし、自分たちが遊んで終わるだけでなく、年少組や年中組、1年生も招待して遊ぶことにしました。

冬ランドでは、4つのグループ（レストラン、水族館、射的、氷ジェットコースター）に分かれて制作を進めていきました。途中、互いにイメージが合わず口論になったり、目的から逸れた制作をしたりすることがありましたが、その都度みんなで話し合っ解決し、3週間かけて完成することができました。招待された園児や児童たちは、冬ランドを体験しました。数人の児童は「（ジェットコースター）押すの手伝うよ！」と園児に声をかける場面もあり、互いに親しみをもって楽しみました。

冬ランドで使う氷を作ってください。



押すの手伝うよ！

【幼保小の円滑な接続】

これまでの交流活動で経験した学び（友達と話し合いイメージを共有する、目的意識をもった制作活動など）を生かした冬ランドになりました。学期が変わっても「1年生を招待したい」と相手意識があり、「1年生みたいにしたい」という思いから、ひらがな表を見て招待状を意欲的に書いたり、言葉を選びながら楽しく接客したりしていました。

今年度は、昨年度の反省をふまえ園小の交流クラスを固定しました。その結果、職員同士の連携もしやすくなり、互いに子供の实態を理解した上でねらいを設定することができました。また、子供の姿から単元構成や展開を見直すこともでき、つぶやきや興味関心を大切にしたい子供主体の学びになりました。

様式6

【スタートカリキュラム】

「学びをつなぐ 人をつなぐ スタートカリキュラム」に向けて3つの視点で紹介します。

①生活科を中心とした単元構成について

Point!

今年度の成果と課題を振り返り、改善

生「がっこうと なかよくなるう」

- ・学校探検を通して、施設の場所や使い方を知り、場面に応じた行動について考える。
- ★ 場に応じた言葉を使ったり、見つけたことを話したりする。学校探検で見つけた物を分類したり、数を数えたりする。

失礼します。
学校探検に来ました。

保健室にベッドが4台あったよ。

生「ともだちと なかよくなるう」

- ・新しい友達と遊んだり、上級生や先生達と関わったりし、学校にいる人達に親しみをもつ。
- ・活動や遊びの中で、自分の好きなものやその理由を答えたり、雲梯につかまっている時間などの数を数えたりする。

「おはなしかきたいな」「おはなしかきたいな」「おはなしかきたいな」

「なんていおうかな」「どうぞよろしく」

算「なんばんめ」

音「セブンスステップス」

「チェェェェェェェェ」「ひらいたひらいた」

「さんぽ」「じゃけんぼん」

図「どんどんかぐのはたのしいな」

体「体ほくしの運動」「固定施設を使った運動遊び」

道「はりきりいねんせい」

私が好きな動物はうさぎです。理由は…

今年度作成した生活科を中心とした単元構成を、「子供の姿」から見直し、改善しました。

子供のつぶやきや興味関心に応じた学びができるように、教材研究を行い各教科と合科・関連付けました。

②時程の工夫について

Point!

幼児期からの円滑な接続に向けた柔軟な時間割

- なかよしタイム（友達や先生や学校に慣れ、安心感をもって人間関係を築いていく時間）
- わくわくタイム（生活科を中心に、他の教科と関連を円りながら主体的に学んでいく時間）
- くんくんタイム（子供達の興味・関心を大切に、教科の特性を生かして学んでいく時間）

本校で今年度実施したモジュール授業（45分の授業を3つに分ける）やなかよしタイム・わくわくタイム・ぐんぐんタイムを継続します。

研修を通して学んだ「子供の興味・関心を生かした保育」や「子供の実態を考慮した保育時間の設定」を生かすことができるように、子供が安心感をもったり、子供の实態に合わせた授業展開をしたりすることができるようにしました。

6年生と一緒にランドセルなどの準備

自由遊び（室内遊び）			
健康観察で元気づけ挨拶をする。			
生	がっこうと なかよくなるう	国	おはなし ききたいな
学	はじめての しょうがっこう	生	わくわくどきどきを みつけよう
国	なんていおうかな	生	ともだちと なかよくなるう
音	うたって おどって なかよくなるう	道	あかるい あいさつ
図	なんていおうかな	図	ずがこうさくが はじまるよ
体	はるがきた	生	がっこうと なかよくなるう

③幼保小の職員のつながりについて

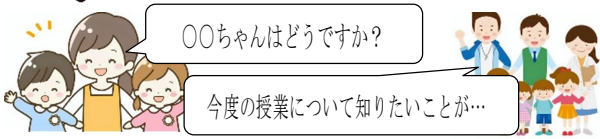
幼保連携	子ども	通年 連携協議会の実施 (年に3回以上適宜実施し、実践交流や幼保小に関わる話を行う。)	連携通信の発行 (連携協議会の内容や子どもの様子について意識統一を図る。)	育ちや学びをつなぐ (就学前の活動や取組、声かけの工夫について聞き、小学校での活動に生かす。)	10月「秋見つけ」 (年長児と一緒にどんぐりや落ち葉拾いをする。)	11月「音楽交流会」 (1年生の音楽発表の様子を事前に披露する。)	12月「秋のテーマパーク」 (生活科で作ったおもちゃを年長児とともに楽しむ。)
	職員	4月「スタート訪問」 (各園の先生に本校にいらしていただき読み聞かせ等をしていただく。子どもたちの安心感へつなぐ。)	6月「水遊び・土遊び」 (就学前の遊びを聞いて、活動に生かす。)	8月「保育参観」 (幼稚園・こども園の保育の様子を小学校の職員が参観し、学ぶ。)	校内研修 (保育活動の工夫を、幼保の先生を講師とし、研修する。)	10月～(随時)「実態把握」 (子ども主体の交流に向け、育	12月校内研修 (子ども達の実態から主体的

Point!

双方の育ちや学びを交流・把握

まずは職員同士がつながることで、安心感・満足感・自己発揮できる環境が整い、子供の思いを大切にしたい授業を実施することができると考えます。

これまでの育ちや学びを知ることで、教材研究の視野も広がり、子供の实態に合った授業ができます。



3 まとめ

幼児教育長期派遣研修を通して、幼児期の育ちや学びについて園児の実態をもとに理解することができました。そして、「スタートカリキュラム」の考え方は、1年生だけでなく、全学年に通ずることであると思いました。子供達は、毎年新たな環境（人・もの・こと）の中で多くの学びをしていきます。「〇年生だから…」と考えることもありますが、一人一人が主体的な学びをすることができるよう、安心できる環境を整え、子供の实態を考慮した授業展開を大切にしていきたいです。

〈乳幼児教育支援センターより〉

スタートカリキュラムのキーワードは「安心・成長・自立」と言われています。この考え方は、どの接続の段階においても大切にしたい考え方です。子供たちは、生まれたときから様々な経験・学びを経て、今、先生方の目の前にいます。その子供たちが、安心して主体的に自己を発揮できるよう、子供たちの姿をもとにカリキュラムを実施するとともに、柔軟に改善していくことが大切です。